

# SDGs実施項目：11.住み続けられるまちづくりを

## 11 住み続けられる まちづくりを



都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする

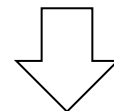
地域と協働で地域の生活サポート  
見守り安心サービス  
くらしサポート  
市民活動助成金制度

- ・安全で暮らしやすい居住環境
- ・性別や年齢などにも配慮



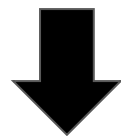
アトラクションの内容、安全性

- ・日本の大都市に多い「過密」



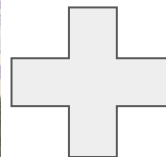
ファストパスにより混雑削減

過密、待ち時間を最小限に減らす



## 検証内容

# Google Form を活用したファストパス制度導入



Google Forms



## 21HRクラス展ファストパス

ファストパスを利用できる時間帯は以下の画像よりご確認ください。

\*このフォームで収集した氏名、メールアドレスはファストパス運営にのみ利用し、責任を持って管理いたします。

氏名\*

回答を入力

HRNO（在校生のみ）

回答を入力

# アトラクションの内容・安全性

## 文系的アプローチ

・アトラクションの手軽さ  
★★★★☆

テーマは「赤ずきんちゃん」

台車に乗りながらストーリーに沿って周遊し、ダーツなど複数のブースを体験する。

幅広い世代への  
アトラクション展開



作業スペース

## 台車・装飾の安全性

★★★★★

台車は人が一般的な製品の形を意識。  
乗りやすく、押しやすいデザインに。  
側面をダンボールにしたことで安全。

### ・ 来客者の年齢層

2日目には、小さい子どもから年配の方まで利用。  
教室の外を装飾、中を見やすくしてが向上。

### ・ 教室全体の見た目の雰囲気

森の雰囲気を再現するため、教室を薄暗く設定。  
→フोटスポットの月の強調にも。



# ファストパス・台車で混雑回避

## ・ファストパスの利用数

★★★★☆☆

全校生徒約800人のうち38人（約5%）利用  
→人数が少なすぎてデータとしては不十分  
利用者は優先的に列の先頭へ→理解多数

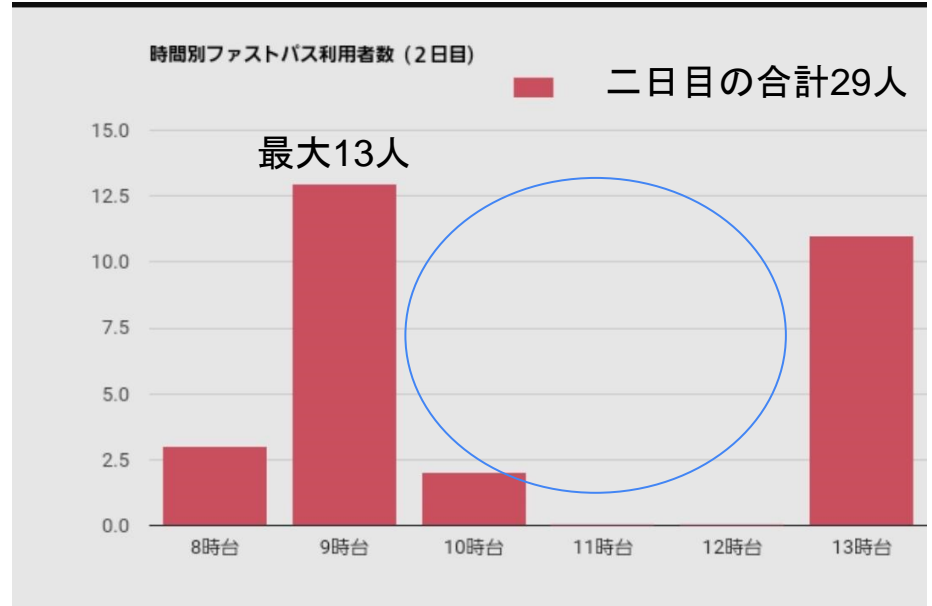
1日目は利用が少数も二日目に増加。  
→告知が不足していた。

## ・時間別の利用者数傾向

昼の時間に利用者減

→[昼食時間を分散することも混雑削減に](#)

## 理系的アプローチ



## 台車を2台使用

★★★★★

1台につき2人、  
最大で3人まで乗車可能  
常に2台稼働で回転率UP  
→最大待ち時間約5分で混雑回避を達成

### ・デザイン、設計

ドアを大きくしたことで  
乗降が容易でスムーズな入れ替えが可能に

椅子はパイプ椅子を  
養生テープで固定  
→椅子の安定感と乗り心地向上

### ・改善点

- 3台作ったものの2台しか使用しなかった。
- シミュレーション、計画の不足
- ・テープを大量に使用
- ・ダンボールの強度不足



# まとめ

11 住み続けられる  
まちづくりを



ファストパスは効果が薄かったものの  
過密削減、広い年齢層の集客などSDGsの目標は達成

## 反省の観点

SDGsの目標との親和性	過密削減は達成。 安全で年代問わず楽しめるものになった。
文理融合	理系的な面ではファストパスを、文系的な面ではアトラクションの安全性を考えることができた。
感染者予防	後方のドアが開いていたことで空気循環が可能にサーキュレーターを設置が改善点
廃棄物の量	消耗品が多く廃棄物も増えてしまったが、三台の台車は演劇部に寄付することでリユースを達成

